

遠野をもっとおもしろく、私たちの手で遠野をかえよう

遠 野 商 工 会

機関名	遠野商工会		
所在地	岩手県遠野市東館町 9 - 4		
電話番号	0 1 9 8 - 6 2 - 2 4 5 6		
地域概要	(1)管内人口 2万8千人	(2)管内商店街数 8	商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 8 商店街	(2)会員数 272	商店
商店街の類型	(3)空店舗率 5 %	(4)大型店空き店舗 -	店
	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

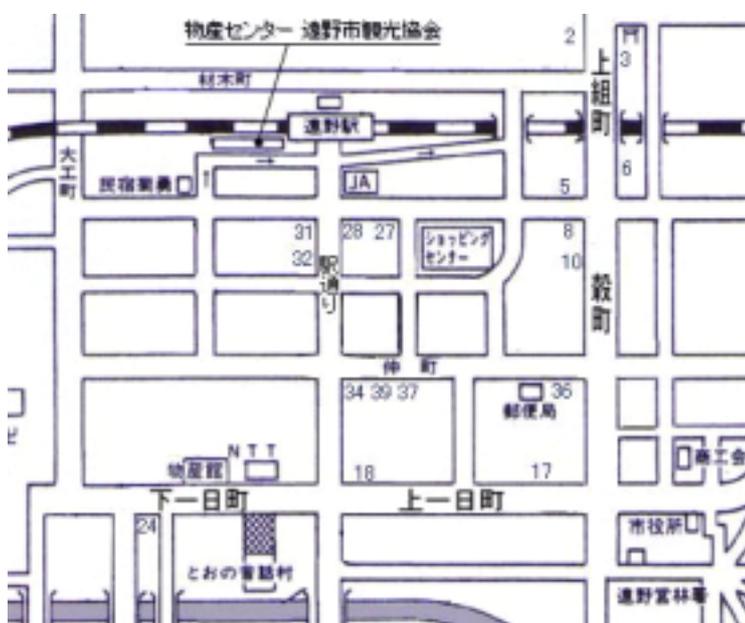
平成 12 年度	活性化対策事業 総事業費	無料巡回バス、イベント、シンポジウム 20,032 千円
平成 13 年度	活性化対策事業 総事業費	一店逸品運動、バーチャルモール、パソコン教室 商品配送について検討会 10,247 千円

【事業実施内容】

1. 背景

遠野市は、岩手県を縦断する北上山系の中央に広がる盆地に位置し、その面積は琵琶湖とほぼ同じ広さである。江戸時代は南部藩の交通の要衝で海陸交易の地として繁栄してきた。また、柳田國男の「遠野物語」で知られた伝説と民話の里である。

しかし、近年は、人口の減少と基幹産業である農業、畜産、林業は減少傾向にあり、平成 3 年、国道 283 号尾の遠野バイパスが開通し、バイパス沿いに急速に郊外型の商業施設が集積し、駐車場を十分



遠野市中心市街地の地図

確保したナショナルチェーン店舗が立地しはじめ、商業の中心がバイパス沿いへと移動し、中心市街地が徐々に力を失っていき、街とともに発展してきた商店街にも空き店舗が目立つようになってきた。

そこで、行政は地域の特性や資源を生かし地場産業や中心市街地の活性化や観光の振興、交流人口の拡大のための各種施策を推進してきた。

中心市街地の活性化では、平成 10 年より中心市街地活性化事業に取り組み、商店街を活性化させるための事業の 1 つとして実施した。

平成 12 年については、各商店街が主体となった事業を展開するために、各事業を分散化させて事業を実施した。

平成 13 年については、平成 12 年度の事業展開を踏まえ、各個店の魅力作りを促すために一店逸品運動の展開やホームページの作成をおこなった。

現在も、この事業は続けており、イベントを開催することよりも、個々のお店の魅力作りを丹念に行うことによって、着実に事業を継続していきたいと考えている(平成 15 年 3 月現在)。

2. 事業内容

〔平成 12 年度事業〕

空き店舗活用事業、駐車場対策として無料巡回バスの運行、あわせて各商店街を中心としたイベントの実施や、シンポジウムの開催をおこなった。

無料巡回バスについては、現在遠野市で 100 円バスとして運行している(平成 15 年 3 月現在)。

商店街等活性化先進事業	空き店舗活用事業(空き店舗調査、語り部案内所、賑わいスポット、まちや横丁、チャレンジショップの支援) 駐車場対策事業(無料巡回バスの運行) イベント・シンポジウムの開催 (フリーマーケットや町衆セミナーなど各種イベント事業)
-------------	---

その他平成 12 年度に行った事業

ハード事業	ファサード事業(下一日市地区)
コンセンサス形成事業	中心市街地活性化連絡協議会の開催(月 1 回) TMO 情報の発行(2 ヶ月に一回 8,000 部)
広域ソフト事業	祭事&催事事業(町家のひなまつり) 共同販売促進事業(共通商品券発行事業・子供映画会など) 街角ガイドブック作成事業

〔平成 13 年度事業〕

一店逸品運動とバーチャルモールの作成、パソコン教室、商品配送について検討会をおこなった。

商店街等活性化事業	一店逸品運動の推進(静岡市呉服町商店街の取り組みを参考に) バーチャルモールの構築 パソコン教室の開催 商品配送システムの構築
-----------	--

その他平成13年度に行った事業

地域振興活性化事業	若手後継者育成事業 空き店舗活用等 (ボランティア活動拠点施設の開設支援、賑わいスポットの運営等)
地域活性化調整費	軒先ギャラリー推進事業(雛祭り等) 芸能と物産交流事業
TMO 運営事業	語り部案内所の運営 止まり木ソフト事業等



パソコン教室の様様

【 効 果 】

平成12年度には、中小企業庁、中小企業総合事業団のビジネスズームアップに取り上げられ、新聞にも掲載された。バス運行についても、市民への認知度は高まった。継続して遠野市で運行している。

空き店舗活用については、新規創業者が少ないということもあり、チャレンジショップ支援事業という形ではなく、新規創業者支援事業にシフトしている。

平成13年度に実施した事業では、一店逸品運動など現在も継続的に取り組んでおり、今後も継続しながら、各個店の魅力作りを行いつついる。これらを含めて、中心市街地活性化センターとともに連携をして事業推進を進めたい。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

昨今の中心市街地におけるモータリゼーションへの対応の遅れ、バイパス開通後の郊外型商業集積の進展、消費者のライフスタイルの変化など、中心市街地が抱える課題は大きく、空き店舗の増加、商業の空洞化が懸念される。こうした現状を打破するには、市街地の整備改善と商業の活性化を同時に進行させながら、各事業を一体的に推進することが急務となっている。

【 教 訓 】

事業認定期間以前から、事業に要する予算については、十分な打合せを踏まないと、実際に事業を実施するにあたり、期間が短くなってしまふところがあると思われる。

1年間の計画を立てたとしても、計画どおり順調に進めばいいのですが、そればかりとは限らないし、また、各機関の意識の統一も必要になるので、十分な打合せというものが重要だと認識した。

【 関 連 U R L 】

- 遠野商工会 <http://www.shokokai.com/tohno/>
- 遠野ほっとねっと商店街 <http://www.v-toono.jp>
- 遠野市 <http://www.tonotv.com/tonocity/>
- 岩手県商工会連合会 <http://www.shokokai.com>

